

## 宮武 剛

本医師会名誉会長、大島伸一・長寿医療研究センター名誉総長、辻哲夫・元厚生労働省事務次官、新田國夫・日本在宅ケアアライアンス理事長と、実務の第一人者

が並ぶのも、初の試みらしい。2000年度には介護保険法が施行された。福祉施設や老人病院に介護を頼っていた体制を改め、特に

「在宅医療・治し支える医療の概念と実践」が出版された（中央法規、本体3800円）。

本の帯で「在宅医療の概念を明らかにし、体系的にまとめた本邦初の」とうたう。なるほど大学医学部には在宅医療の定番テキストはまだ無いようだ。

「生命、生活、人生」という、より幅のある概念のQOL（生活の質）をどう最大化するのか、現場実践と

「在宅医療の概念と実践」が出版された（中央法規、本体3800円）。

## 初の在宅医療テキスト

## 介護を大事にする医師を

1986年の診療報酬改定で、従来の「往診」とは別体系で、定期的に自宅等を訪ねる「訪問診療料」と「在宅医療指導管理料」が設けられた。92年の第2次

「在宅介護」が重視され、いわば「在宅医療」と車の両輪となる。「病院完結型医療」から「地域完結型医療」への転換でもある。

さらには地域で医療・介護の福祉の連携を進め、地域ぐるみで支え合う「地域包括ケアシステム」構築が大きな流れになった。

みやたけ・ごう NPO法人福祉フォーラム・ジャパン副会長、学校法人・社会医学技術学院顧問

さらに地域で医療・介護の福祉の連携を進め、地域ぐるみで支え合う「地域包括ケアシステム」構築が大きな流れになった。